

## QWERTY配列開発史 あるいは QWE . TY配列開発史

シヨールズらタイプライターの系譜の初期開発史ではCurrent(1949, (1954はmy未見))文献が定説の根拠を支えているようにmy思う。インターネットで確認できる文献では

[Richard N. Current 『The Original Typewriter Enterprise 1867-1873』](#) (1949) (complete print versionはView:document description選択の中にある。[pdf直?リンクはここ\(重いです\)](#))

この論文のP.400の上部 脚注 2 2 の段落あたり

「[alternative method of pulling relatively straight](#)」 Current(1949)

が、キー配列とタイパーの配置の関係性の誕生を示唆している とmy考える。cf.関連図など<http://blog.goo.ne.jp/raycy/e/927fd97bc79fe690f69dc6f00129843>

[1871年、タイパーの配置だけを変えることは許されなくなっていた\(カレント1949脚注22の段落あたりより推察\)](#)

そしてこれは、[Rosch\(初出は初版1989か?未確認\)](#)や[安岡孝一\(2005\)](#)、[安岡孝一共著『キーボード配列QWERTYの謎』](#) (2008)などの論拠の一部を危うくするものであるとmy考える。

仮説:『[「活字棒の衝突」というインシデント](#)』。これに加えて、[カレント\(1949\)の脚注 2 2、2 6、](#) - [霊犀社 2:](#)

通常、定説へのチャレンジャーが、既存定説の根拠を否定する作業手続きを行うもののような気もする、。 <http://blog.goo.ne.jp/raycy/e/d2495a4e945fde2e19735ef7789b33fd>だとしたら定説側は、脚注22の段落あたりの論拠の否定が示されるまでは安泰である、。なはずなのだが、。でもま、脚注22、確認するに越したことはない、。

### カレント(1949) 脚注 2 2、脚注 2 6

- [Current\(1949\)の脚注22](#)
- [R e R e : 脚注 2 2 , 2 6 の手紙のほうを先に見たい、でもまずは史料批判からなんでしょうね、](#)
- <http://www6.atpages.jp/~raycy/Y/footnotes22and26.htm>
- <http://blog.goo.ne.jp/raycy/s/%B5%D3%C3%ED>

### スラッシュドットへのmy関連コメントなど

- [yasuoka - スラッシュドット・ジャパン ユーザ](#):[安岡孝一氏へのmyコメント](#)など
  - <http://slashdot.jp/search.pl?q=raycy&order=%40cdate+NUMD&threshold=-1&op=comments>
  - [raycy - スラッシュドット・ジャパン ユーザ](#):

### その他

- 概念 [カテゴライズ](#) と [事象存在の歴史の実態](#)
  - [アーム、タイパー、活字棒、印字棒](#)
  - [が絡む 衝突 接触 干渉](#)
  - [アップストライク、アンダーストライク、フロントストライク](#)
  - [まったく異なる](#)

counter 1871